

非常通報装置

White Lock 99 New

取扱説明書



本製品をお使いになる前に、本書をお読みください

はじめに

この度は、「White Lock 99 New」をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

「White Lock99 New」は、デジタル携帯電話機と組み合わせて使用する非常通報装置です。人体検知型赤外線センサーの検知により自動通報します。

電池切れの通報や再呼び出し機能をはじめ、通報先が話し中や電話にでないときは、電話がつながるまで発信を繰り返す機能など確実に通報するための数々の機能が組み込んであります。各機能についての詳細は、本書内の詳細説明をご覧ください。

通報方式は、一般の電話で聞けるメロディーと、クイックキャストで受信できるフリーメッセージの何れかをスイッチで選択できます。

本書では旧名称「ポケットベル」を「クイックキャスト」、また「White Lock 99 New」を「本体」と表記しています。

ご使用の前に、本書をよくお読みの上、内容を理解してからお使いください。

本体設定後は、本書の説明にしたがって動作確認をしてお使いください。

本書はお読みになった後も、本製品のそばなどいつも手元においてお使いください。

本体に接続できないデジタル携帯電話機の機種について

* 2001年8月現在、利用できない携帯電話機は、SONY、京セラ、NEC製の一部の機種です。

* また、プリペイド式携帯電話機にも対応していませんのでご注意ください。

* CdmaOne、PHS は接続できませんのでご注意ください。

製品の最新情報はインターネットでご覧になれます。

製品ホームページ <http://www.adocon.co.jp/>

* 本書に記載されている内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

* 本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

特 徴

・電池で1ヶ月以上の連続駆動

1日に1回程度の通報なら新品のアルカリ電池で1ヶ月以上の連続駆動が可能です。

- * 電池での連続駆動は監視中に発生した通報動作の回数によって短くなります。
- * 長期間ご利用になるときは、本体に接続する携帯電話機の電池残量に注意してお使い下さい。
- * 通報が1度もない状態(監視状態)でお使いのとき、電池が半年近くもつことがあります、異常ではありません。

・簡単設定

本体の設定は、本体内部のスライド式ディップスイッチで簡単に設定できます。

・携帯電話機の電源コントロール機能搭載

待機中は(通報しないとき)、本体に接続している携帯電話機の電源を自動的にOFFにして、携帯電話機のバッテリー消費を少なくします。

・電池残量が少なくなると自動通報

本体内部の電池残量が少なくなると自動的に通報を行います。

・通報方式は2種類

一般電話、携帯電話などへのメロディー通報、クイックキャストへの文字メッセージ通報の何れかを選択します。

目次

ご使用の前に	4
略称、商標について	4
制限事項	4
安全にお使いいただくために必ずお守りください	5
設置場所について	5
お願い	5
パッケージ内容の確認	6
各部の名称とその機能	7
本体外観	7
本体内部	8
呼出の種類と通話時間	9
通常の呼出	9
電池電圧低下時の呼出	9
1回の通報にかかる通話時間	9
動作設定と確認	10
電池の交換	10
本体の設定	10
携帯電話機の設定	11
携帯電話機と本体の接続	12
本体電源の入れ方と切り方	12
監視の開始	13
動作確認	14
設置方法	14
設置場所を決める	14
動作モニター	15
動作モニターランプ	15
Q&A	17
こんなときには	20
本体を清掃するときは	20
センサー部分を清掃するときは	20
仕様	21
「White Lock 99 New」本体	21
内蔵の赤外線センサー	21

ご使用前に

略称、商標について

記載の会社名または製品名は各社の登録商標です。

制限事項

- 本製品は日本国内での使用を目的に設計されています。国外でのご利用は出来ません。
- 本体と接続可能な携帯電話機は下記の通りです。
デジタル式携帯電話機のみ接続できます。デジタル携帯電話機の種類によっては、正常に動作しない機種もありますのでご注意ください。
2001年8月現在、利用できない携帯電話機は、SONY、京セラ、NEC製の一部の機種です。
また、プリペイド式携帯電話機、CdmaOne、PHSには対応していません。最新の情報はホームページ (<http://www.adocon.co.jp/>) をご覧ください。
- 別売のACアダプターの電源プラグを差し込む場合は本体の電源スイッチをOFFにした状態で差し込んでください。
- 通報方式は、本体内部で設定します。
メロディーの録音やクイックキャストのメッセージを変更することは出来ません。

本体の操作について

- 電源スイッチをOFFにした直後にONにすると内部CPUが正しく起動しないことがあります。
電源スイッチをOFFにしてから、再びONにする際にはOFFの後3秒以上待ってONにしてください。
- 本体内部のディップスイッチを操作する場合は、必ず本体の電源スイッチをOFFにしてから行って下さい。
- 本体に携帯電話機を接続するときは、必ず携帯電話機の電源をOFFにしてから行って下さい。
- 携帯電話機への充電機能はありません。

電池について

- 製品パッケージに電池はついておりません。006P 9Vのアルカリ電池を別途ご用意下さい。
電池電圧が低下しているときに赤外線センサーを検知したとき電池交換の状態を通報することがあります。このため定期的に通報の点検をされ、電池は早めに交換するようにして下さい。
- ACアダプターを使用する場合は電池を外してご使用ください。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

本商品は以下の注意事項をよくお読みいただき正しくお使いください。間違った使い方をされますと、感電、火災や機器の故障が発生するおそれがあります。安全にお使いいただくために必ずお守りください。

- ・ 本商品を人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性や安全性を必要とされる設備には接続しないでください。また、携帯電話機を利用する際には電波の影響を受けやすい機器などの近くでのご使用はお止めください。
- ・ 本商品は侵入等の防止装置ではありません。本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通話の機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、弊社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 本体もしくはそれに接続されている部分から異臭がしたり、過熱や煙が出る場合は、ただちにご使用を止め、電源を切り、取り外してお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。
- ・ 本体、及び付属機器を分解しないでください。
- ・ 本体は、屋内での使用を前提に設計されています。屋外でご使用の際には使用条件定格内になるように工夫してご使用ください。
- ・ 本体内部に異物等が入らないようにご注意ください。
- ・ 別売のACアダプタは必ず所定の製品をご使用ください。他の製品の流用は絶対にお止め下さい。
- ・ 本体を持ち歩くときや、輸送するときは携帯プラグに無理な力がかからない様にして下さい。

設置場所について

本体を次のような場所に設置しないでください。動作が不安定になったり、おもわぬ火災や故障の原因となる場合があります。また、「仕様」の「内蔵の赤外線センサー」もあわせてご覧ください。

- ・ 急激な温度変化や湿度変化があったり、結露するような場所。
- ・ 直射日光が当たる場所。
- ・ 水気、火気のある場所。
- ・ 粉塵等のほこりの多い場所。
- ・ 不安定な場所や振動がある場所。
- ・ 強い磁気や電磁波を発生する機器の近く。
- ・ 腐食性ガスのある場所。
- ・ 気化した薬品や化学反応をおこす様な場所、空気中に塩分が含まれている場所。

お願い

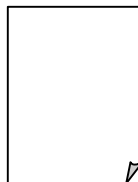
本体に接続する携帯電話機は、携帯電話機に付属の説明書をお読みください。
本体やケーブル等は、小児の手の届かない場所に保管、設置してください。
長期間にわたって無人で使用する場合は、必ず定期的に保守/点検を行ってください。

パッケージ内容の確認

製品をご使用になる前に、パッケージに以下のものが全て揃っているか確認してください。
不足しているものがございましたら、お買い上げの販売店、または弊社までご連絡ください。



White Lock 99 New 本体

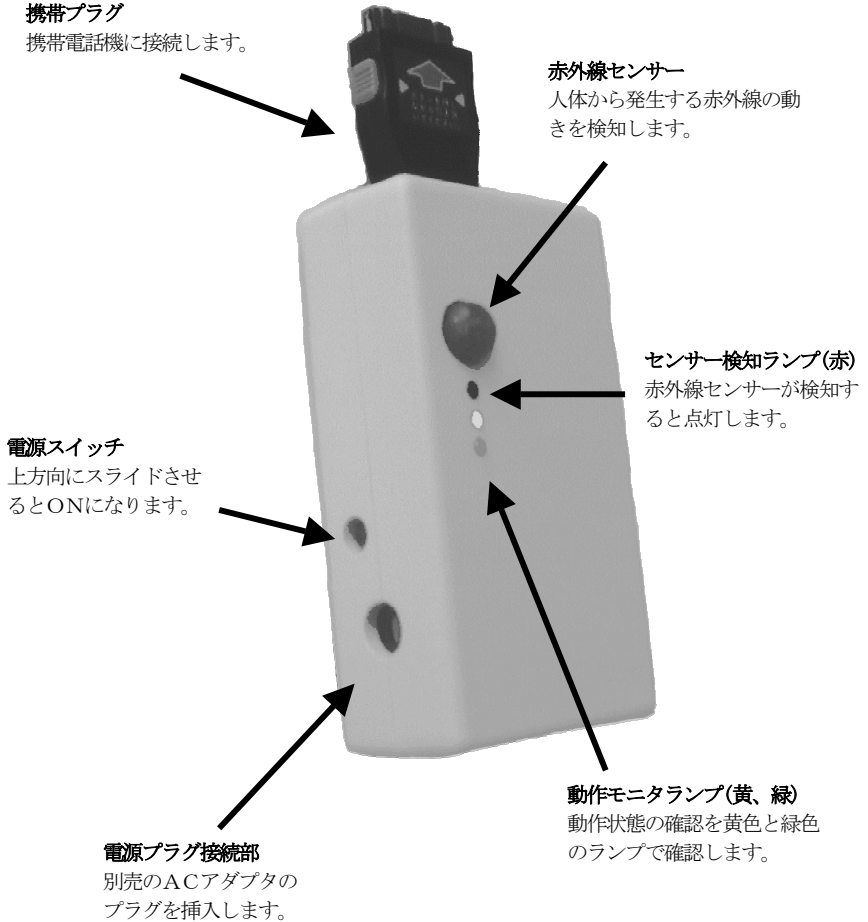


保証書

- * 携帯電話機は本製品に付属していません。
- * 上図と実際のものとは多少形状等が異なる場合がありますのでご了承下さい。
- * パッケージには、電池は含まれておりません。製品をご使用の際にはお近くの電器店などでお買い求め下さい。電池は、006P 9Vのアルカリ電池です。

各部の名称とその機能

本体外観



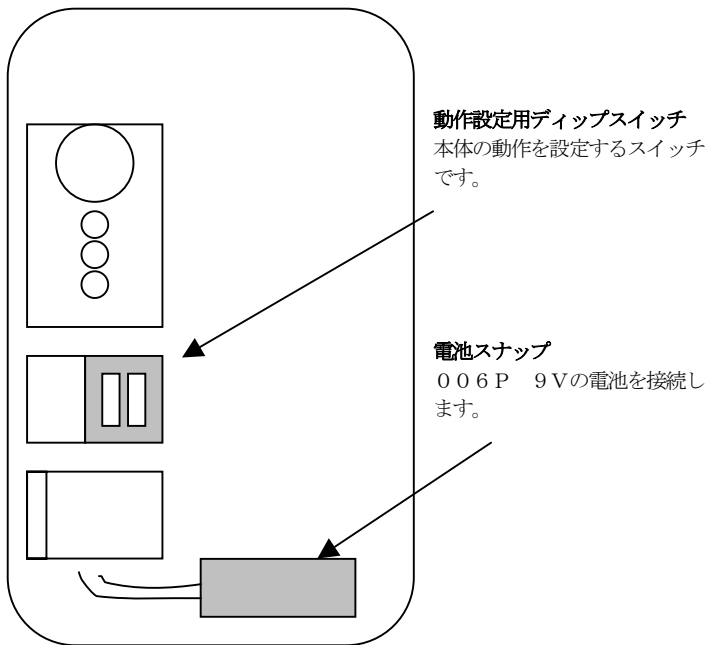
※携帯プラグに無理な力が加わると、破損する恐れがあります。
設置時や設置後、持ち歩くときや輸送時には携帯プラグの取扱いは慎重に行ってください。

本体内部

プラスドライバーを使用して本体ケース裏側の4本のビスを外してからケース上面をゆっくりと上へ持ち上げると蓋がはずれます。

ケース内部で操作する箇所は、動作設定用ディップスイッチと電池スナップです。

下図はケース内略図



呼出の種類と通話時間

通常のはり出

本体内蔵の赤外線センサーが検知したときに通報を行います。
メロディー通報の場合は、通報先の電話機の受話器からメロディーが聞こえます。
クイックキャストに通報した場合は、「キンキユウ ツウホウ WL99」となります。
センサー検知範囲などの詳細は、「仕様」「内蔵の赤外線センサー」をご覧ください。

電池電圧低下時の呼出

本体内部に取り付けた電池の電圧が約4.5V以下になると通報します。
メロディー通報の場合は、赤外線センサー検知時とは違うメロディーで通報します。
クイックキャストに通報した時のメッセージは、「テンチ コウカン WL99」となります。
電池電圧低下時の通報があるとその後は、赤外線センサーが検知しても通報しません。
また、携帯電話機の電源をONの状態にしたまま待機します。
この通報を受けた場合は、新しい電池に交換して下さい。充電式電池の場合は電池の充電を行って下さい。
電池電圧が低下しているときに赤外線センサーを検知したとき電池交換の状態を通報することがあります。このため定期的に通報の点検をされ、電池は早めに交換するようにして下さい。

1回の通報にかかる通話時間

クイックキャストに通報するときの通話時間は、約40秒程度です。
メロディー通報の場合は、受信側が受話器を上げている時間によって通話料金が異なります。
但し、通報1回当たり最大90秒を過ぎると自動的に電話を切ります。この場合、通報が正常に終了していないものと判断し、自動的にリダイヤルします。
このリダイヤルの動作が続くと本体、携帯電話機の電池の消耗が早くなりますのでご注意ください。

動作設定と確認

電池の交換

初めてお使いになる時や、消耗した電池の交換は本体裏面のケース取り付けビスをドライバーで外し、本体カバーを開けて内部の電池スナップに接続して下さい。

また、別売のACアダプターと充電式電池を組み合わせてご利用になると、充電式電池に充電しながらの運用が可能となっております。

ACアダプターを接続してご利用になるときは必ず専用の充電式電池をお使い下さい。

誤って充電式電池以外の電池を接続すると故障や発火の恐れがありますので絶対にお止め下さい。

本体の設定

本体の動作設定は、本体内部のディップスイッチで行います。

ディップスイッチの各番号毎のスイッチをONにしたりOFFにしたりすることで動作を指定します。ディップスイッチの変更は、必ず本体の電源をOFFにしてから行って下さい。

番号	内容	ON	OFF
1	通報方式	クイックキャスト	メロディー
2	再呼び出し	する	しない

1. 通報方式

発信先の電話番号がクイックキャストの場合はONに、一般電話機や携帯電話機、PHSなどの場合は、OFFに設定します。

*通報先がクイックキャストの場合

センサーが検知し通報にはいると、約40秒後に自動的に通報が完了します。

通報先に設定したクイックキャストには以下のメッセージが表示されます。

通 報 時：「キンキユウ ツウホウ WL99」

電池電圧低下時：「デ ンチ コウカン WL99」

2. 再呼出

センサーが検知して電話をかけ、相手に正しく通報できた後で約180秒待機して、もう一度電話発信を行う機能が再呼出です。クイックキャストへの通報で、短時間の間電波の届かない場所にいたときなどには有効です。再呼出機能を有効にする場合はONにします。

携帯電話機の設定

赤外線センサーが検知したときに通報する相手先電話番号は、携帯電話機に設定します。

携帯電話機は電話機内部に、電話帳が組み込まれています。

本体は、この電話帳に登録された特定の電話番号へ通報します。

通報先がクイックキャストの場合にはクイックキャストの番号、その他の場合には相手先の電話番号をこの電話帳に登録してから使用します。

電話帳への登録は、以下のことに注意して行って下さい。

1. 暗証番号またはロックコードを初期値にする

携帯電話機に設定しているロックコードを、必ず「0000」に変更してください。（このとき登録済みの番号を控えておいてください）

携帯電話機の機種によってはこの設定が不要場合があります。確認方法は動作確認後にこの設定を任意のものへ変更して正常に発信動作すれば初期値に設定する必要はありません。

2. 電話帳（メモリダイヤルまたは短縮ダイヤル）への登録

通報時に電話帳のメモリ「001」番に登録されている番号へ発信します。既にこのメモリに通報先以外の電話番号が登録されている場合は登録済みの内容を他の場所に移動してください。

動作確認を行うときは、近くにある電話機の番号（他の携帯やPHSでも良い）を登録します。

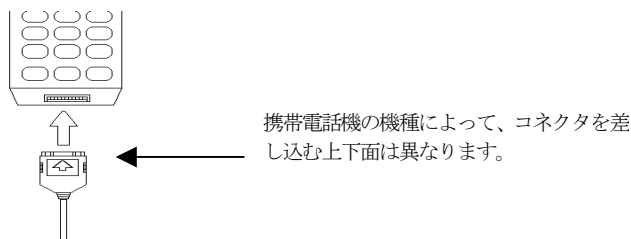
登録完了後、内容を表示させて正しく登録できているか再確認してください。

登録する電話番号は、必ず市外局番から入力して下さい。

- * 各携帯電話機によって電話番号を設定する場所のことを、「電話帳」、「メモリダイヤル」、「短縮ダイヤル」など様々な名称になっていますのでご注意ください。
- * 携帯電話機によっては、メモリの「001」が短縮の1番又は0番の場合もあります。
- * 暗証番号（パスワード）の設定によっては発信できない場合があります。この場合は出荷時の状態に設定してください
- * 携帯電話機がキーロック（暗証番号を入力しないと使えない状態）してであると発信できない機種があります。このときはキーロックを解除した状態でご利用ください。

携帯電話機と本体の接続

本体上部の携帯プラグを携帯電話機のジャックに接続します。
必ず携帯電話機の電源をOFFにしてから本体に接続して下さい。
コネクタは、「カチッ」と音がしてロックされるように差し込みます。外す場合はプラグ横のロックボタンをつまみながら引き抜いてください。



本体電源の入れ方と切り方

本体電源のONとOFFは、本体側面の電源スイッチを操作します。
以下の操作方法にしたがって、本体と本体に接続する携帯電話機を操作して下さい。

電源の入れ方

1. 本体、及び携帯電話機の電源がONの場合は、「電源の切り方」を参考に本体と携帯電話機の電源を切って、本体から携帯電話機を外しておきます。
2. 携帯電話機の電源をOFFにします。
3. 携帯電話機を本体の携帯プラグに接続します。
4. 本体の電源をONにします。
5. 本体の黄色ランプが点滅を始め監視の準備に入ります。

電源の切り方

1. 本体、携帯電話とも電源がONになっている場合は、本体電源を先にOFFにしてから携帯電話機の電源をOFFにします。
それぞれ一方の電源のみがONになっている場合は、ONになっている方の電源をOFFにします。
2. 本体の携帯電話接続用コネクタ横のロックボタンをつまみながら携帯電話機を外します。

監視の開始

本体の電源をONにすると、黄色のランプが高速点滅します。センサーが安定するまでおよそ30秒間点滅します。このとき、人体を検知するとセンサー検知ランプが点滅しますが、発信動作はしません。黄色ランプが点滅している間にセンサー検知エリアから離れてください。

全てのランプが消灯すると監視状態となっています。ここでセンサーの検知エリアに近づいてください。センサーが検知すると、赤色ランプが点滅または点灯します。すぐに黄色ランプが点灯し、携帯電話が自動的に発信を始めます。黄色ランプが点灯してから数秒（4秒から8秒）待つと設定しておいた電話機のベルが鳴りますから受話器を上げてください。本製品が発信するメロディーが聞こえてきます。

電話のベルが鳴って受話器を取ってから、1分30秒以内に受話器をおろさなかったときは電話を切ります。この場合には10秒経過後に再び電話がかかってきます。この機能は再呼出機能ではありません。受話器を取った方が正しく確認をしなかったときのための機能です。電話のベルが鳴り始めてから1分30秒以内に電話に出ないときは、一旦電話を切ります。10秒待って再び発信を開始します。相手が電話に出るまで繰り返します。相手が話中であったときは、すぐに電話を切って10秒待ちます。その後再びダイヤルを開始します。

発信が正常終了して回線が切れた直後からセンサー検知の復帰動作を開始します。復帰動作は、正常終了後に再びセンサーを検知したり、センサーの前に人がいて検知動作を断続（継続）している場合に不要な発信を避けるためにあります。センサーの検知が完全になくなってから60秒以上経過すると、次にセンサーを検知したとき再び発信が出来る状態に復帰します。60秒以内に1回でもセンサー検知すれば、新たに60秒が経過するまで発信をすることはありません。（※60秒の復帰動作が機能するのはWL99N Ver5.0以降の製品です。）

復帰動作中は黄色ランプが高速点滅します。



全ランプが消灯して監視を開始します。



黄色ランプが点滅するので30秒以内に検知エリアから退避する。

センサーが検知すると赤色ランプが点灯又は点滅し、直後に黄色ランプが点灯して通報を開始します。

動作確認

本体や携帯電話機の設定方法をご確認されたら、以下の方法で製品が正しく動作するか必ず確認して下さい。

1. 「本体電源の入れ方と切り方」を参考にし本体と携帯電話機の電源を切ります。
2. 携帯電話機に、通報先を設定します。通報先は近くの電話機などにします。
3. 本体内部のディップスイッチの設定を全てOFFにします。
4. 「本体電源の入れ方と切り方」を参考に本体と携帯電話機を接続し、本体電源をONにします。
5. 本体前面の黄色ランプが高速点滅したら、センサーの検知エリアから離れて下さい。
センサーの検知エリアから離れるときに、赤色ランプが点滅又は、点灯することがあります。
6. 全てのランプが消灯したら、センサーの検知エリア内に入ってセンサーに検知させます。
(赤色のランプが点灯または、点滅)
7. 黄色ランプが点灯し、通報先に設定した電話のベルがなり、受話器を取るとメロディーが聞こえます。
8. メロディーが聞こえることを確認したら受話器を下ろします。
9. 黄色ランプが消灯します。このとき、携帯電話機の電源が自動的にOFFになります。
10. 再びセンサーの検知エリアから離れ、一定時間が経過すると全てのランプが消灯します。

これでテスト完了です。このまま監視状態で待機中ですから、センサーの検知があると通報します。問題なく動作することを確認されたら、ご利用になる環境に合わせて本体及び、携帯電話機を設定して下さい。

正常に動作しない場合は、「動作モニター」または、「Q&A」をご覧ください。

設置方法

設置方法

設置場所を決める

本体を設置する前に、本体の仕様を確認の上、設置場所を決めて下さい。

壁や天井などに取り付ける場合は、自動車用両面テープなどを使用して下さい。

本体に接続する携帯電話機は、携帯電話機専用ホルダーなどを利用して固定します。

携帯電話機が通話圏外にならない場所でアンテナが伸ばせる機種の場合は、アンテナを十分に伸ばした状態でお使い下さい。また、携帯電話を横にせず縦に設置してください。

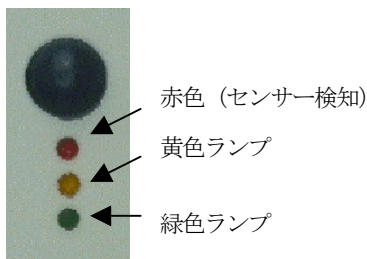
また、「仕様」「内蔵の赤外線センサー」も併せてご確認ください。

動作モニター

動作モニターランプ

本体前面に赤色、黄色、緑色の3つのランプがあります。この3つのランプで本体の動作状況を確認することが出来ます。ここでは、通信の状態から見たときの説明をします。

1. **電話を接続中**
黄色ランプ点灯(受話器を上げたときから受話器を下ろすまでの間)。
2. **話中であったとき**
黄色ランプ高速点滅(3秒間)。緑色ランプ消灯。このあと3項に進む。
3. **再ダイヤル待機中**
黄色ランプ低速点滅(再ダイヤルを開始するまで)。待機時間終了で1項へ進む。
4. **相手が電話に出なかったとき**
緑色ランプ高速点滅(3秒間)。このあと3項に進む。
5. **使われていない番号にかけたとき、または電波の状態が悪くて正しくダイヤル出来なかったとき**
発信開始で黄色ランプが点灯し、しばらく待つと、黄色、緑色ランプの両方が高速点滅(3秒間)。この後、黄色、緑色ランプは消灯し、3項へ進む(相手先番号の確認が必要)。
6. **発信先(相手)が受話器を取ってから通話後に受話器を下ろして通報が終わったとき**
 - ・ 再呼び出しを「しない」に設定している場合、または再呼び出しが終わったとき一定時間(センサが有効となる間)が経過すると黄色、緑色ランプとも消灯。
 - ・ 再呼び出しを「する」に設定している場合
緑色ランプが再呼び出しを開始するまでの間、低速点滅します。黄色ランプは消灯。その後1項へ進む。
7. **プラグが携帯電話機に接続されていないとき**
センサが検知したときは5項と同じ動作をします。
センサが検知しないとき(待機中)は黄色、緑色ランプとも点灯しません。
8. **電源スイッチを入れてセンサが安定し、監視を開始するまでの間**
黄色ランプ消灯、緑色ランプ高速点滅。
その後一定時間(センサが有効となる間)が経過すると黄色、緑色ランプが消灯。



ランプの点灯状態からみたとき

黄色	緑色	通信の状態
消灯	消灯	<ul style="list-style-type: none"> 電話が切れている 通信は全て完了している 入力信号待ちの状態
点灯	消灯	電話をかけているとき
低速点滅	消灯	再ダイヤル待機中
高速点滅	消灯	話し中の時
消灯	点灯	
点灯	点灯	
低速点滅	点灯	
高速点滅	点灯	
消灯	低速点滅	再呼出待機中（再ダイヤルと異なります。再呼び出しを「する」に設定しているときのみ）
点灯	低速点滅	
低速点滅	低速点滅	
高速点滅	低速点滅	
消灯	高速点滅	<ul style="list-style-type: none"> 相手が受話器を取って通報が終わったとき 電源スイッチを入れた直後にセンサが安定し、監視を開始するまでの間
点灯	高速点滅	一定時間待っても相手が電話に出なくて通報装置が電話を切ったときで3秒間の間
低速点滅	高速点滅	
高速点滅	高速点滅	<ul style="list-style-type: none"> 使われていない番号にかけたとき 電波の状態が悪くて正しくダイヤル出来なかったとき

*注意

通信中に携帯電話機のボタン操作をしたり、携帯のプラグを抜き取った場合は誤動作します。携帯プラグの接続と通報装置の電源操作については「携帯電話機と本体の接続」と「本体電源の入れ方と切り方」を参照ください

Q & A

Q. 取り付けは素人でも出来ますか？

A. 携帯電話にプラグを差し込んで、両面テープなどで本体と携帯電話機を壁に固定するだけです。ホームセンターなどで販売している携帯電話の取り付けポケットなどを利用すると良いでしょう。

Q. 車内に設置したとき、車の外を通る人や動物に反応しませんか？

A. オープンカーや窓のあいている車などでは、人や動物がセンサに反応する可能性があります。窓を閉めておけば検知しません。

Q. 携帯電話機の電波でセンサが誤動作することはありますか？

A. 携帯電話の電波による誤動作は、ありません。

Q. 本体の電池はどれくらいもちますか？

A. 通報回数や、電池のタイプ（ニッカド、アルカリ、マンガン）にもよりますが、まったく通報の無い状態であれば3ヶ月以上もちます。外部電源接続用の端子は標準装備されています。外部電源接続コードはオプションとなっています。尚、電池切れになった場合は電池切れ情報を通報します。但し携帯電話機の電池につきましては通報できません。

Q. 設置場所の温度変化による誤動作はありますか？

A. 温度変化が激しい場所に設置した場合には、センサが検知することがあります。温度むらのある場所へセンサを向けなければ問題はありません。

Q. PHSを接続できますか？

A. できません。

Q. PHSで電話をうけられますか？

A. 一般電話機、携帯電話機、PHSなどで電話をうけることができます。

Q. 本体の赤外線センサーが反応してから通報までの時間は？

A. 本体の赤外線センサーが人や動物を検知してから、ダイヤルするまでは1～2秒です。

Q. 屋外で使用できますか？

A. 「White Lock 99N」は、防水防雨仕様ではありません。水滴や、雨、粉塵等に晒される場所では適当なケースに組み込んでください。また、接続される携帯電話の仕様もご確認ください。

Q. 通報先が電話に出ないときはどうなりますか？

A. 「White Lock 99N」は、一度ダイヤルを開始してから通報先に電話がつながるまで、90秒おきにリダイヤルします。相手が話し中の時にも同様に、かけ直します。つまり、通報内容を相手に伝えるまで何度でも繰り返して通報します。この場合には、相手が受話器を取るまで電話料金はかかりません。

Q. 携帯電話機で通報を受けるためには携帯電話機が2台必要になるのですが。

A. 受信用の電話機はPHSや一般電話でも良いのですが、携帯電話機を移動中に使いたい場合には2台必要となります。電話会社の契約によっては2台目の携帯電話機の基本料金の割引制度があります。ドコモの場合には最大で25%割引。また、前払い方式の基本料金の不要な契約も始まりました。詳しくは携帯電話会社におたずねください。

Q. 通信料はどれくらいですか？

A. ポケットベルの場合は、通信時間が19から20秒ですから平日昼間ですと1回の発信について通信料が20円その他の時間帯で10円となります。メロディー通報の場合は受信側が受話器を上げている時間にもよりますが、10秒程度と考えますから10円となります。「White Lock 99N」に接続した発信側の携帯電話機が発信者番号を通知するに設定してあって、受信側の電話機に番号表示機能が付いていれば受話器を取らなくても「White Lock 99N」の通報であることが分かりますから、通話料がかかりません。ほとんどの携帯電話機、PHS電話機には発信者側の電話番号が表示されますし、電話帳に登録しておけば発信先が表示されますから便利です。

Q. 誤動作などで電話代が多く請求されるようなことはありませんか？

A.

1. 電話の仕組みとして相手が電話に出なければ当然電話代はかかりません。
2. 電話を受けた側が電話を切れればその時点から電話代はかかりません。
3. 受信装置をポケットベルにして電話をかけたときには一定時間が経過するとポケットベルサービス会社の側から電話を切りますのでそれ以上電話代はかかりません。

「White Lock 99N」の場合は万一に備えて、上の2番目の場合に受話器を正しく戻さなかったときでも一定時間経過すると電話を切るようになっています。いずれの場合であっても誤動作によって電話代が多くなることはありません。安心してご利用ください。

Q. F211iで電話がかかりません。

A. 通報先の電話番号は「短縮グループ」の1～6番に登録してください。

Q. 留守番電話で通報を受けると何度も通報してきます。

A. 留守番電話の録音時間が90秒以上になっていませんか？本装置は通報時に通話時間が90秒以上になると異常と判断しもう一度通報します。留守番電話の録音時間を短くすれば正常に通報が終わります。携帯電話の留守番電話サービスでは録音時間が変更できませんので、何度もかかってくる場合は留守番電話の機能は使用しないで下さい。

Q. ACアダプターをつけると本体の電池に充電しますか？

A. 充電しません。ACアダプターを使う場合は本体の電池は外してください。

Q. 電源を入れたらランプが点滅したままになるのですが。

A. 電源を入れると黄色のランプが点滅します。これは赤外線センサーが安定するまで待つためです。約20秒間センサーに検知させないようにしてください。するとランプが消え待機状態となります。

Q. 本体に携帯電話機を接続したときに携帯電話機の電源がOFFにならない

A. 携帯プラグに携帯電話機を接続するときは、本体と携帯電話機の電源をOFFにしてから接続して下さい。

Q. 携帯電話機の電源がONのまま

- A. 本体の電池電圧が少なくなっていることが考えられます。電池を新しいものに交換するか、充電式電池の場合は充電し直してご利用下さい。

Q. 本体が通報中に電話を切るにはどうしたら良いのですか。本体の電源をOFFにしても電話が切れないのですが。

- A. 携帯電話機の電話を切るボタンを押してください。これで電話が切れますが、本体の電源をOFFにしないと、リダイヤルしますから本体の電源もOFFにしてください。

Q. 通報時の音質が悪いのですが

- A. デジタル携帯電話機の音質が悪いためです。本装置の問題ではありません。

Q. クイックキャストのメッセージが文字化けするのですが

- A. クイックキャストがメッセージを受信したとき、なんらかの電波ノイズが混入したときに起きる可能性があります。

電波の状態が悪いために電話が途中で切れたときは、文字が表示されず、着信音が鳴るだけでメッセージが表示されないことがあります。

この様な現象が頻繁に起きる場合は、再呼出しを行うことで回避できる場合もあります。

Q. 携帯電話機の電話帳に電話番号を追加するとき、メモリの空き番号に登録されてしまう場合

- A. 電話番号の追加が、自動的に空き番号へ登録されてしまう場合は、通報先の電話番号をとりあえず登録します。この時、登録した通報先がメモリ番号の何番に登録されたかを控えておきます。次に、先程登録した電話番号を編集してメモリ番号を「001」に変更して登録します。

Q. 周囲の温度によって検出感度は変化しますか

- A. 変化します。

周囲温度による感度の変化は季節によって現れます。

夏場は人体表面温度と室温の差が小さくなるため検出しにくく、冬場はその逆で検出しやすくなる傾向にあります。

また、気温が高くなったときのアスファルトや屋根の温度の揺らぎなどを検知する場合がありますのでなるべく日陰や直射日光の影響のない場所に設置して下さい。

Q. 電話はかかるが電話に出てもメロディが聞こえず10秒ほどで切れてしまう。

- A. 携帯電話の電波の状況が悪いことが原因です。携帯電話を縦に設置してアンテナを伸ばしてお使ってください。

Q. F505i で電話がかかりません。

- A. 同じメモリー番号001でも電話番号が3つ登録できますが、一番最初の欄に電話番号を登録してください。2番目、3番目に登録しても電話はかかりません。

こんなときには

本体を清掃するときは

本体のよごれは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いて拭いたりしますと、有害なガスが発生したり、変形や変色の原因になることがあります。

センサー部分を清掃するときは

検出面のホコリ・ゴミに強い検出方式になっていますが、異常に付着しますと検出距離の余裕度が低下しますので、検出面は清潔に保つようお願いします。

センサー部分を清掃するばあいは、柔らかい布などで軽く拭いて清掃して下さい。ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いた場合、有害なガスが発生したり、変形や変色、感度の低下の原因になることがあります。

仕様

「White Lock 99 New」 本体

形式	メロディー及びDTMF呼出方式非常通報装置
接続可能携帯電話機	デジタル携帯電話機
自動発信タイミング	本体内蔵の赤外線センサー検知時 電池電圧低下時 (4.5V以下)
通報メッセージ	クイックキャストへ英数カナで固定メッセージを送出 メロディー方式 (メロディー音で通報)
話し中検知機能	あり (話し中及び通信が確立しないときにリダイヤル)
電源	電池からの電源供給 (006P 9V、アルカリ) 外部電源 DC9V～13V センタープラス
動作温度	0℃～60℃
動作湿度	15%～80% (結露なきこと)
周囲環境	腐食性ガスなきこと。 粉塵等汚れの激しい場所での使用は、センサーに影響のない様にカバー等で保護して下さい。
呼出電話番号設定	通報先電話番号は携帯電話機内部に設定
寸法 (mm)	50 (W)×90 (H)×26 (D) プラグ及びケーブル部分を除く
重量	重量 約 80g 携帯電話機、電池を除く本体重量
動作電圧	9.0V～13.0V
消費電流	500μA (最大10mA)

内蔵の赤外線センサー

本体内蔵のセンサーは、赤外線の変化を検出するMPモーションセンサーです。人体以外の熱源を検知したり熱源の温度変化および移動がない場合には、検出しないことがあります。ご使用の際には以下の状況に注意してお使い下さい。

人体以外のものを検知する場合

- ・ 人体以外の動物が検出エリアに入った場合。
- ・ 太陽光、自動車のヘッドライト、白熱灯などの赤外線がセンサーに直射する場合。
- ・ 冷暖房機器の温風、冷風や加湿器の水蒸気などにより検出エリア内の温度が急激に変化する場合。
- ・ 通過する車両などを検知することがありますが、これは正常動作の範囲です。
- ・ たばこの火などの強力な赤外線を発するものはまれに検知することがあります。

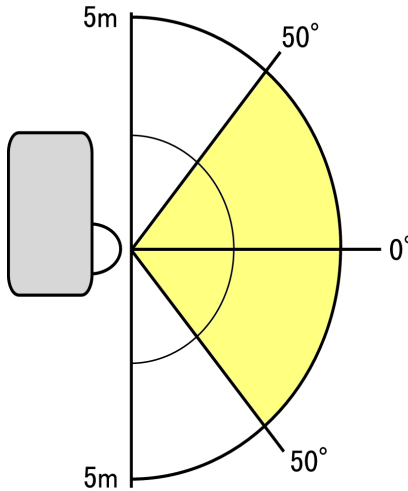
検知しにくい場合

- 検出対象物との間にガラスやアクリルなどの遠赤外線が透過しにくい物体がある場合は検知しません。
例えば、車内と車外の赤外線を遮る窓ガラスが閉まっている場合などです。
- 検出エリア内の熱源がほとんど動かない場合や、高速に移動する場合。

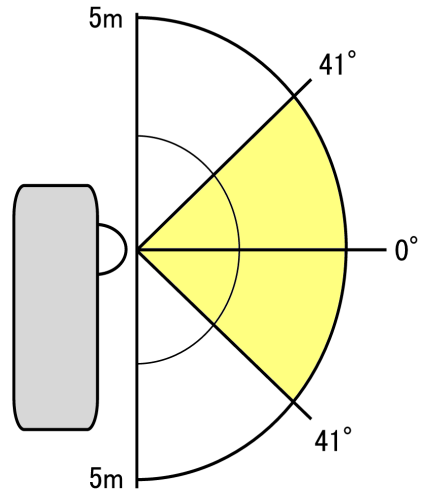
センサーの検知範囲

検知距離	最大 5 m
検知角度 (水平)	100°
検知角度 (垂直)	82°

本体上部から見た図



本体側面から見た図



*検知距離や、検知角度は周囲環境によって若干異なる場合があります。

「White Lock 99 New」

本書 Ver 2.7

取扱説明書

改定 2005年 3月

発行元 株式会社 アドコン
<http://www.adocon.co.jp/>
本社 TEL (0852) 54-2036 FAX (0852) 54-2196
〒690-2101 島根県松江市八雲町日吉 3-24
東京営業所 TEL/FAX (03) 3784-1421
〒142-0053 東京都品川区中延 5-7-16